

みんなあつまれ、あしかがしぎかい。

しぎかいひるば

CONTENTS

特集 新たな100年のその先へ。

- ④ こんな結果になりました！
- ⑤ こんなことを聞きました！
- ⑩ 密着！あしかがしぎかい
- ⑫ ぎかいにとどけ！わたしたちのこえ

あしかが
市議会だより
No. 361
2022.2

1952.4.10.

議 會 時 報

NO. 1 -A-

昭和二十七年良地方財政の展望

・地財政発表・地方財政白書刊・

(一)現在予想される新規財政需要額は平常費が四八八億円、臨時事業費が四四八億円計九三六億円である。(二)歳出見込みは廿六年度既定財政規模六〇七億円であるからこれに廿七年度の

新規財政需要額を加え、総額七〇六億円と推定される。(三)今国会における地方税法の改正見込みにもとづけば廿七年度の地方税収は約四一四億円の増収が期待されているが、自然増収の大きい税目は担当に偏任度が高いため一部の地方団体を除き相当数が独立財源の強化は大きくして期待されないので、これらの団体は財政の困難を打開し現況の欠陥を補うため法定外普通徴収を創設する動きが認められる。

四)廿七年度の歳入見込みは地方税三七七億円、平癒交付金一〇億円、国庫補助金一五〇億円、地方債四〇五億円、雑収入七七三億円で計六六五八億円と推定されたが附加償還税が延期されたので二九二四億円左見込まれるのを歳入見込総額は六八〇六億円と算定される。(五)歳入見込みは歳出見込の収入不足額は二〇〇億円と見込まれるがこれに対し平癒交付金五〇億円、地方債一五〇億円を増加することに決定した。

わが地方自治制度に民主的改革がなされてすでに久しい。かゝる法制の整備を通じて、市議会の責任と重要性がいよいよ加重され、運営の面においていく多の改革を見て今日に至っている。吾が市議会も地方自治法施行後二期に入り、過去の業績に誇るべきものもまた少なくないが、本年四月より、事務局の独立を期し、補助機関の充実を期して、その機能を高度に昂める段階に至ったことは、本市議会史

に一転期を画するものであつてまことに御同慶に堪えない。今度議員全体が、事務局の補佐を充分活用して、それぞれの私心を完全に遂行することを念願して止まないものである。議院が高度の審議を行うための今日の広範なる自治に対応するには、専門化の傾向は必然である。委員会制度が枚種の面におけるこのあらわれであるが、議員が所限の部面のみに通ずることとは、市政の総合発展を期する

地方税法の一部改正法案は

地方税法の一部改正法案の内容

以上二点の目的を果す資としてこの度、この、議院時報を発行することにした。

議員および市政関係者の座右の資料として、御活用あらんことをこゝに切望して止まないものである。

足利市議会議長

原田金三郎

発刊の辞に代えて

議會時報

編集・発行
足利市議会事務局
印 刷
足利市富輪町2473
長井昭孝工 房

発刊当時のしぎかいひるば(第1号)